



結局は感情優位かよ！

前号の対人援助学マガジンにて、「多頭飼育となると世間では「保護＝レスキュー」ばかり目立っている。SNS やニュースで流れてくるのは、劣悪な飼育環境の写真とレスキューの様子ばかりだ。」と文句を吐露し、「現場から直接救いだすことだけが「保護」ではなく、現場の環境の改善をして間接的に「保護」することだってできる。と思う。」と偉そうに書いた矢先に、保護しか選択肢が見つからない案件の相談が私が取り組むNPO「人もねこも一緒に支援プロジェクト」に寄せられました。

多頭飼育の飼い主さんに関わっている医療関係者の方からの相談でした。

『癌の末期、予後は半年以内、〇〇市在住の方が、一人暮らしの家で猫を20匹ほど飼っておられるようです。予後は長くなく、猫を含めこまめに面倒を見てくれる家族もいないため、早く猫の貰い手を探すなど手を打たないといけないと再三促していますが、体がしんどく動きにくいためか全く行動を起こしてくれません。最終的に猫を手放さないといけない必要性は理解していただけており、ご本人も、猫を保健所に連れていくことになるのはしのびないとおっしゃっています。何らかの形で猫たちを保護していただけないでしょうか。このような機関に相談することについては、ご本人からは許可をいただいております。』

そう遠くないうちに〇〇さんはお亡くなりになります。最初に病院に来られた時からいつも猫のことを気にされていて、入院期間も最短に、治療より猫優先の方なので、猫のことが片付かないと〇〇さんは落ち着いて人生を終われない気がしているんです。私は、〇〇さんの病気はもう完治させてあげられないんですが、少しでも満足して最期を迎えていただきたいと思います。〇〇さんの猫たちが安心して暮らせる場所ができれば、思い残すことないようにしてあげられるのではと思っています。』

前号で「保護せざるをえないケースと保護しなくてもなんとかなるケースの見極めが重要だ。」と書きましたが、見極めるも何も、余命という住宅の立ち退き期限よりも動かし難いものがそこにはありました。

人もねこも一緒に支援プロジェクトでは、基本、多頭飼育の保護依頼は受けていません。人もねこも一緒に支援プロジェクトがメインで関わっている多頭飼育ケースは現在 5 件、96 匹。小さな N P O にとって、96 匹はとても保護対応できる頭数ではありませんが、5 件の家族を支援するという間接支援の形をとることによって、96 匹の猫をサポートすることができています。

でも、このケースは保護しないとどうしようも無いケースです。

「うちでは力不足です、ごめんなさい。」

と断ってしまおうと何度も思いました。
相談してくださった方の気持ちが胸が痛くなるほど優しく、飼い主さんのご住所を聞いたら、今の私の家から自転車で 10 分の場所だった（そんなことある？）という恐ろしい偶然から、これは猫神様に「これは、君に対応してほしい案件なんだけど？」と言われているような気がして、悩んだ末に**引き受けることにしました**。

当分、N P O で新規の多頭飼育崩壊ケースの相談は受けられないかもしれません。
結局全頭は救えないかもしれません。

感情に任せて動いていたらキャパを超えて破滅する。そう分かっているから、今まで一生懸命理論を考えて、理屈っぽい自分で、感情的な自分の暴走にブレーキをかけてきました。でも、そうやって積み上げてきた理屈を、いとも簡単に感情は打ち破ってしまうものなんだなぁと実感しました。

私がこの「そうだ猫に聞いてみよう。」の読者だったら、

「結局感情優位かよ！今までのなんやねん！」とツッコんでいることでしょう。

というわけで、今回の「そうだ猫にきいてみよう」では、新しくかかわることになった 6 件目の多頭飼育ケースについて書いていきたいと思います。このケースはまだまだ進行中なので、「初動」について書くことになります。

初回の家庭訪問

相談者の方に同行していただき、家庭訪問を実施しました。初めに把握したい内容は、

- ① 猫の頭数（本当に20匹？）
- ② 猫の人馴れ具合
- ③ 室内の状況
- ④ 飼い主さんの意志（不妊手術、里親譲渡を自分の意志で実施したいと思っているか）

です。家庭訪問の結果、

- ① 頭数：本当に20匹。生後1～2ヵ月の子猫が5匹、4ヵ月2匹、成猫13匹でした。
 - ② 人馴れ具合：飼い主さんは全頭抱っこ可能。初対面だと、逃げる。
 - ③ 室内の状況：かなり悪い。物が多い。飼い主さん宅にいる状態では里親募集困難。
 - ④ 飼い主さんの意志：手術、里親譲渡の意志あり。
- と分かりました。



当初は、全頭の不妊手術をしたうえで一旦飼い主さんのお家に戻し、里親探しをしようと考えていましたが、飼い主さんのお家にいる状態では里親探しは不可能だと分かりました。計画を変更して、私の仕事場で無理なく預かれるのは2匹なので、2匹ずつ引き出して、1匹里親に出たらまた1匹保護するというサイクルを繰り返していくしかないと考えました。

さらに、パッと見ただけでも妊娠していそうなメスが1匹いました。5月という出産シーズンであることを考えれば、今月中に数匹のメスが出産してもおかしくない状況でした。全頭の不妊手術が急務です。通常であれば、福祉機関や行政に話にあって、どうぶつ基金さんの多頭飼育救済チケットをなんとか取得してもらいたところですが、どうぶつ基金への申請経験のない行政を説得して行動に移してもらうには少なく見積もっても1、2ヵ月がかかります。それを待ってられる状況ではないので、自費での手術が必要ということになります。ただ、飼い主さんはご自身の医療費で生活が圧迫され、病気のせいで働くことも困難になっているため、生活保護申請の準備をされている状況でした。

つまり「人もねこも一緒に支援プロジェクトで費用を捻出して、一刻も早く全頭に不妊を実施する必要がある」ということがわかりました。

一斉不妊手術の段取り

自費で全頭の不妊手術が必要となるので、月に2日間だけオープンする「大阪ねこの会さんの一斉有料手術」の日に手術を依頼したいと思いました。それが一番、低価格で1回で多頭の手術を実施することができます。今月の手術日を調べると、家庭訪問の2日後と3日後が手術日でした。明後日に手術をお願いするためには、明日の夕方と明後日の朝に猫たちを保護して手術会場へ移動する必要があります。

初回家庭訪問の次の日には猫たちを不妊手術のための病院に連れていくという、なんとも無茶苦茶なスケジュールですが、この機会を逃すと次は1か月後になり、猫の頭数は増えているはずです。飼い主さんにも大阪ねこの会さんにもOKをいただけたので、あとは15匹を運べるサイズの車の手配と人手の確保が必要です。車は知人に2日間自分の車と交換をお願いし、人もねこも一緒に支援プロジェクトのスタッフに手伝える人がいないか聞いたところ、2名のスタッフが手伝ってくれることになりました。

一時預かり・保護ボラさんのお願い

「2匹ずつ引き出して、1匹里親に出たらまた1匹保護するというサイクルを繰り返していくしかない」と家庭訪問時は思いましたが、室内の環境と物の多さを考えると、手術した猫を一旦お家にもどすことは現実的ではないと思えてきました。一旦もどしたら、再捕獲が難しくなってしまうかもしれませんし、手術と一緒にしてもらう駆虫もウイルス検査も無駄になります。これは、人もねこも一緒に支援プロジェクトだけで抱えずに、SOSを出そうと決意しました。

自分のFacebookで自分のお友達限定の公開設定にして、猫の保護または、預かりボランティアに協力してもらえませんか？と呼びかけました。命を預ける以上、だれでもいいとは言えません。活動内容や飼育環境を知っている知り合いの中で、手を挙げてくれる人が居た頭数だけは、手術後お家に戻さずに保護してもらおうと考えました。

結果、SOSを出してから一晩で、10名の方が声をかけてくださり、15匹分の受け入れ先が見つかりました。正直ちょっと涙が出ました。まさか全頭の受け入れ先の目処がつくとは思っていませんでした。

切実なSOSを出し、手を挙げてくれたボランティアさんたちによって、ここの猫たちの命は救われます。でも、里親募集を始められる状態にするまでのケアに時間がかかり、里親募集をしたとしてもなかなか声がかかりにくい、つまり長期的にボランティアさんのキャパを埋めてしまう可能性がある猫をボランティアさんをお願いすることによって、その空気があれば命が救われていたかもしれない未来の命を失わせてしまった可能性があることを私は忘れてはいけなかったと思いました。嬉しさと苦しさ半分半分の感情でした。

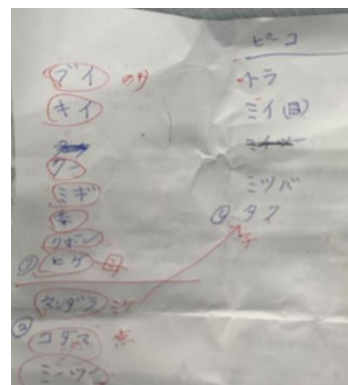
一斉手術

手術前日の夕方と、手術当日の朝に飼い主さんが頑張ってケージに入れてくださったのが全部で10匹でした。残りの5匹はお家の中を逃げて隠れてしまい、捕まえることができませんでした。



手術と同時に、里親募集をするにあたって、必要な3種混合ワクチン、ウイルス検査、ノミダニ駆除を全頭に実施してもらいました。

飼い主さんが作ってくださった名前リストと、捕まった猫たちの写真を照らし合わせると、残っている5匹はオス4匹、メス1匹だと分かりました。最後のメスは急いで保護することにして、残りの4匹は先に保護した子たちが落ち着いてから対応していこうと考えました。

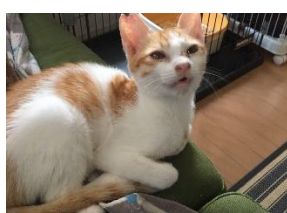


それぞれの保護先へ

- ・生後1～2ヵ月の子猫と4ヵ月の子猫1匹の計5匹は、川西TNR地域ねこの会さんが保護してくださいました。



- ・茶白の4ヵ月の茶君はボランティアのHさん。
- ・耳血腫持ちのキイ君と、年齢の割に歯石がたまっているミーツはボランティアのIさん。
- ・警戒心の強いりぼんちゃんはボランティアKさん。
- ・人懐っこいヒゲちゃん、ミギ、マンダラはネコリパブリック岐阜店さん。
- ・腎臓の病気と膀胱麻痺疑いで里親譲渡が難しいブイ君は終生保護として、アニマルサードアイズさん。
- ・怖がりのコダマちゃんと、あとから保護できたミイちゃんは、私の事務所で駆虫が完了するまで保護し、その後ベットの会議室さんへお願いする予定です。



茶くん



コダマ



ブイ君



ミイ



ミギ
ヒゲ



ミーツ
キイ



マンダラ



りぼん

現在、飼い主さんのお家にいるのが4匹。1匹はギリギリまで飼い主さんと一緒にいてもらい、残りの3匹は、私の保護場所に空きができれば次第保護してきたいと思っています。

ざくっとここまでの収支

この半月でどれくらいの費用がかかっているのかを出してみました。人もねこも一緒に支援プロジェクトではスタッフの交通費は自分持ちになるので、ガソリン代やスタッフの

家から現場までの電車賃は含めていません。保護猫の食費や猫砂代も含めていません。ざくっとの費用です。

寄付		支出	
2020.5.15	M様 5,000	2020.5.14	獣医療費（子猫治療） 1672
2020.5.16	Y様 20,000	2020.5.16	獣医療費10匹分 70,000
2020.5.16	W様 20,000	5.16~18	高速代 10680
2020.5.17	K会様 30,000	5.16~19	パーキング代 2200
2020.6.1	K会様 10,000	2020.5.16	獣医療費(血液検査) 14630
		2020.5.16	獣医療費(駆虫薬) 6600
		2020.5.19	新幹線 21,620
		2020.5.19	静岡タクシー 4740
		2020.5.28	三毛獣医療費 17930
計 85,000		計 150,072	

まだ保護まちの猫が4匹いるので、費用はさらにかかる見込みです。保護してくださったボランティアさんたちがそれぞれ将来的に負担してくださる医療費や食費を含めて、この案件にかかわる費用をだすとする、とおおよそ30万円くらいにはなりそうです。

約3年前に、77匹の多頭飼育ケースの一斉不妊手術を実施し、お家に戻した際の収支が「そうだ、ねこに聞いてみよう No.8」に掲載していたので、比較してみます↓。

お金の状況

- ・HPにて、物品寄付（Amazon 欲しいもののリストを作成し紹介）を呼びかけた。

区分	内容	科目	詳細	金額	
費用	事業費	消耗品費	首輪用紐等	¥648	現金
費用	事業費	消耗品費	首輪用紐等	¥1,512	現金
費用	事業費	消耗品費	養生テープ	¥408	現金
費用	事業費	消耗品費	セロテープ等	¥596	現金
費用	事業費	消耗品費	ペットシート等	¥4,706	現金
費用	事業費	獣医療費	エイズ白血球検査費5頭分	¥15,000	現金
収益	その他収益	物資寄付	M様（キャットフード）	¥0	物資支援
収益	その他収益	物資寄付	N様（キャットフード）	¥0	物資支援
収益	その他収益	物資寄付	K様（キャットフード）	¥0	物資支援
収益	その他収益	物資寄付	匿名（'ビニールシート×5）	¥0	物資支援
収益	その他収益	物資寄付	匿名（'洗濯ネット×20）	¥0	物資支援
収益	その他収益	物資寄付	K様（洗濯ネット×54）	¥0	物資支援
収益	受取寄付金	寄付金	D様	¥6,500	現金
収益	受取寄付金	寄付金	O様（里親さん）	¥5,000	現金
支出				¥22,870	
寄付				¥11,500	

- ・一番高額な避妊去勢手術費は（公財）どうぶつ基金の事業を利用し無料で済んでいる。
 - ・一斉避妊去勢手術に際して使用したハイエースのレンタル費、ガソリン代は、協力してくださったボランティアさんが負担してくださった。
 - ・交通費はそれぞれ自己負担している。
- 多くの方がボランティアとして協力してくださったことにより、なんとか乗り切れた。

どうぶつ基金さん利用、かつ保護ではなくお家に戻す方針だったこともあり、猫の頭数は今回のケースの 3.85 倍ですが、費用は 6 分の 1 以下でした。具体的に費用の違いが比較できたのは有意義でした。今回のケースが完結した時に、最終的な比較をしてみたいです。

実践と記録は不可分の両輪

実は、この対人援助学マガジンの締め切りを過ぎてしまうことがかれこれ、3 回ほど続いてしまいました。編集部の皆様にとっても迷惑をかけてしまっていました。テーマが思いつかないとか、仕事や NPO の活動が忙しいとか自分の中で色々言い訳を作っていました。そして今回のマガジンの締め切りでも原稿を提出できなかった私に、編集長の団先生が

実践と記録は不可分の両輪。

それができている限り、社会の信頼を損なうことはありません。

と戒めのメールをくれました。ものすごくはっとしました。グサッと刺さりました。それを忘れてしまったら、私なんてただ偉そうに書いたり話したりしている若造です。私を講演の場に呼んでくれる人がいるもの、マガジンを読んでくれる人がいるもの、人並みよりは多い実践の記録と省察の積み重ねから生まれるリアルな理論がそこにあるからだと思わなければいけません。

実践の伴わない理論は机上の空論だし、記録と省察の積み重ねが伴わない実践は闇雲です。有効な予防手段という光はどこにあるのか。リアルな実践の記録と省察を丁寧に積み重ねていきながら、その先に見つけていくしかないんだと、再認識できました。

空の雲を払い光を見つけるために、これからも、自分の実践活動とその記録や省察を、ドタバタなケースも含めて、皆さんと共有していきながら積み重ねていきたいと思います。

ご意見、質問などは下記メールアドレスへどうぞ。

筆者



小池英梨子

仕事：ねこから目線。～ノラ猫専門のお手伝い屋さん～

ボラ活動：NPO 法人 FLC 安心とつながりのコミュニティづくりネットワーク

「人もねこも一緒に支援プロジェクト」 プロジェクト代表

ボラ活動：大学ねこ連盟 U-Cats 事務局

お問合せ：e.kosame12@gmail.com